

J A M 政策NEWS

2004年4月2日 第2004-18号

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

03-3451-2586

E-MAIL : syakai@jam-union.or.jp

怒号のなか

年金改正法案衆院本会議で趣旨説明・代表質問

4月1日午後、衆議院本会議で年金関連改正法案の政府による趣旨説明と、これに対する与野党の代表質問が行われました。JAMも連合傍聴団に加わり本会議を傍聴しました。

本会議に先立ち、衆議院議員面会所で集会を開催し、民主党城島議員は「政府は、50年後まで持続可能な政府案と言っておきながら、小泉首相は『一元化発言』等、暫定案のような発言を繰り返している。今国会では、あらゆる手段を講じて、政府法案を撤回に追い込む」と決意表明をしました。

骨なし・ごまかし・先送りの改悪法案！！

民主党は枝野議員と古川議員が代表質問にたちました。

枝野議員は「総理は年金一元化の必要性を認めましたが、政府案には制度の根幹にかかわる一元化問題が含まれていない。これを抜本改革というのは詐欺である。今回法案を通して、数年で根本的に見直さなければならず、法案審議は全く意味がない。法案を撤回し、一元化を含む真の抜本改革を議論すべきだ。」と、今国会で抜本改革を実現するとした、小泉首相の公約破り

の責任を厳しく追及しました。

古川議員は「本法案を撤回したうえで、今回司法からつけつけられた無年金障害者問題に対する明確な解決策を示しこれを含んだ法案を再提出すべきだ。」と述べました。

これに対して小泉首相は「一元化の実現は相当の年数を要する。今回法案と切り離せば、一元化の議論は有意義である。改正法案は給付と負担の均衡を図るための抜本改革である」と抜本改革を強調しました。

4月9日・JAM傍聴団結成

昨日の衆議院厚生労働委員会理事会では、審議入りについて断続的な協議が行われました。与党は本日からの審議入りを強く主張し、与党だけでも審議に入る構えです。これに対し民主党は本日からの審議入りには反対し、強行された場合には審議拒否も辞さない構えです。

JAMデーが実施される4月9日は、民主党が衆議院厚生労働委員会で民主案を提出する予定です。JAMは傍聴団を結成し、衆議院厚生労働委員会を傍聴します。傍聴団は国会前座り込み行動の中で傍聴報告をいたします。

【Coffee Break】

物価スライドで、公的年金0.3%減

公的年金は、物価が上がれば年金額を増額し、下がれば減額するということが、法律で定められています。(完全自動物価スライド制)

平成15年の消費者物価指数は対前年比マイナス0.3%となり、法律通りの取扱いであれば平成16年度の年金額は平成12~14年度に据え置きされたマイナス1.7%とあわせてマイナス2.0%の改定となります。しかし、平成16年度の年金額は、現在の社会経済情勢を考慮して、物価スライド特例措置として、平成15年分の物価指数の下落分(マイナス0.3%)のみの改定となります。

つまり、昨年より年金額より0.3%減額となるわけです。

基礎年金(1階部分)のもとになる797,000円は794,500円になります。

厚生年金(2階部分)の物価スライド率は0.991が0.988になります。